

如水会寄附講義

「社会実践論」講義要綱

(2015年度冬学期)

講義責任者: 筒井 泉雄

2015年9月29日(火)
オリエンテーション14時40分/15時30分
東1号館 1202番教室

如水会寄附講義「社会実践論」では、社会の第一線で活躍されている、本学出身の12名の先輩の方々にオムニバス形式による講義(火曜4限)をお願いしています。

皆さんが、将来への展望に胸を膨らませ、希望を実現するための学問を涵養する指針となるように、また如何に学ぶかを考える指針となるように、「学生時代に何をしてきたか」、「どのように人生を歩んできたか」など、経験に裏打ちされた職業意識、人生哲学、現代産業の現状など、自らの経験を踏まえた講義を、現在第一線で活躍されている先輩の方々にお願いしています。諸先輩講師陣は、自身の歩んでこられた経験と立場から、社会、日本、世界を鮮やかに切り取り、現代社会や社会での自己実践のありかたを皆さんの前に広げてくださいます。

講義を聞き、先輩の方々の生き方やグローバルな考え方に触れ、自身と照らし合わせて考え、質疑応答、感想、意見という形で呼応し、ともに学ぶ場を作り出すことで、皆さんのキャリア形成の第一歩を踏み出してください。

なお、本講義は、如水会及び一橋大学後援会「キャプテンズ・オブ・インダストリーを考える委員会」からの資金提供によって運営されています。「キャプテンズ・オブ・インダストリーを考える委員会」は、故永井正(22学)氏が寄附された基金をもとに、一橋大学の学問風土の活性化を目指して活動しています。

	日付	テーマ	講師
第1回	10月 6日 (火)	一橋大学と如水会	岡田 円治
第2回	10月 13日 (火)	「弁護士」として生きること	道 あゆみ
第3回	10月 20日 (火)	機長のマネージメント ～ManとMachineの狭間で～	蕪木 隆広
第4回	10月 27日 (火)	紆余曲折から伝えたいこと	鈴木 ゆめ
第5回	11月 10日 (火)	会計監査人のち財務アドバイザー、そして毎日かあさん	犬飼 珠美
第6回	11月 17日 (火)	地方再生～風の王国・秋田での風力発電への挑戦	佐藤 裕之
第7回	11月 24日 (火)	楽しすぎるクリエイティブ産業の仕事と新しい世界の創造： ベンチャーとアイドルと投資銀行と	山本 祐也
第8回	12月 1日 (火)	商社 - その変遷と魅力 - 自身の商社マン人生を通じて	治良 博史
第9回	12月 8日 (火)	二つのバブルを乗り越えて	中島 敬雄
第10回	12月 15日 (火)	人生の扉を開いてくれるもの	森川 裕子
第11回	1月 12日 (火)	政策立案にはイノベーターが必要だ	木下 賢志
第12回	1月 19日 (火)	雑誌と出版のいま	出樋 一親

第1回 10月6日(火)



テーマ：一橋大学と如水会
講師：岡田 円治 経済学部・昭和48年(1973年)卒
一般社団法人 如水会 理事・事務局長

社会実践論第1回は、「一橋大学とは何か?」です。大学の歴史は「波乱に満ちた歴史」です。その波乱の歴史の中で、生まれ、成長していった社会科学系総合大学一橋大学の精神は、日本の近代化、高度に発展した経済国家への道のりと軌を一にしたものでもあります。大学と不即不離の如水会は、その過程でどのような役割を果たしてきているのか? 通常と同窓会とは全く異なる如水会の存在と役割についても考えます。42年間のNHK人生の中で得たこと、ジャーナリズムの世界では、大学で学んだどの部分が、どのように生きるのか。単なる知識ではない、「考え方を学ぶことの大切さ」についても考えます。

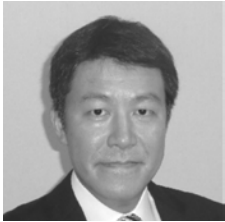
第2回 10月13日(火)



テーマ：「弁護士」として生きること
講師：道 あゆみ 法学部・昭和63年(1988年)卒
弁護士法人早稲田大学リーガル・クリニック
弁護士/ニューヨーク州弁護士

私は、20年前に弁護士登録をし、企業法務、一般民事、家事事件などを手がけ、弁護士として生きてきました。とはいえ、卒業してすぐにこの道を選んだわけではなく、一旦は会社に就職し、3年ほど営業をしていたこともありました。また、私は、弁護士であると同時に、現在小学生の娘をもつ母親として、日々、七転八倒をしてもいます。そうした諸々の経験をふまえ、おそらくは皆さんが普段身近に感じることの少ない「弁護士」という仕事の「実際」を、できる限り分かりやすく、等身大でお話し、その魅力をお伝えするとともに、とりわけ女性が専門職として仕事をもつことの意義や醍醐味などについても、ざっくばらんなお話ができればと思っています。

第3回 10月20日(火)



テーマ：機長のマネージメント ～ManとMachineの狭間で～
講師：蕪木 隆広 法学部・平成5年(1993年)卒
日本航空株式会社 運航訓練部 飛行訓練教官 B767機長

皆さんはパイロットになる事を考えたことはありますか? 私は日本航空に自社養成卒で就職しパイロットになりました。視力や理系でない事など気になるかもしれませんが、眼鏡使用者や文系の人も実はたくさんいます。あまり知られていないエアラインパイロットの世界ですが、幅広い知識と技術、判断が要求され、刻々と変化する自然の中で様々なスキルを使って安全を守り運航を完遂させる非常にクリエイティブな仕事です。今講座では初期訓練から実運航で求められる機長のマネージメント、危機管理まで幅広くお話ししようと思います。皆さんの将来の選択肢として、あるいはこれから社会に出るにあたり心の持ち方のヒントにいただければ幸いです。

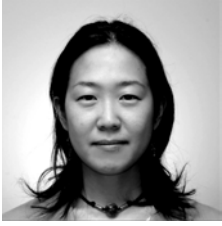
第4回 10月27日(火)



テーマ：紆余曲折から伝えたいこと
講師：鈴木 ゆめ 社会学部・昭和54年(1979年)卒
横浜市立大学附属病院 教授

一橋大学が商経法社の代表的文化系大学であることは間違いなく、私は最近まで理系科目、特に数学には強い苦手意識を持っていました。精神科医になりたいが、心理学にしたのもこの苦手意識のおかげでした。勝手に「自分に限界を設けるな」ですが、再び急に精神科医になりたくなり、受験では英語と国語で稼ごうなどとケチなことを考えました。しかし「思い込みにとられるな」、一橋大学の数学はかなり難しく、手抜きでは合格していなかったのです。一方、学生実習初日、精神科は向かないと悟り、初志は全く貫徹せず、「やりたいことが向いている」ので神経内科を選びました。向いていたかどうかはわかりませんが「向き不向きも変わるもの」。そして「自分を変えることもできる」のです。

第5回 11月10日(火)



テーマ：会計監査人のち財務アドバイザー、そして毎日かあさん
講師：犬飼 珠美 経済学部・平成11年(1999年)卒
株式会社KPMG FAS トランザクションサービス
公認会計士

大学に入学したときは折しも就職氷河期。二度とやるまいと誓った試験勉強を経て、大学卒業後に何とか公認会計士試験に合格しました。約7年間監査法人にて日本およびアメリカで監査業務に従事した後、監査法人再編を機に財務アドバイザーの世界に転身。現在は企業がM&A戦略の立案に不可欠な財務デューデリジェンスサービスを買手(時には売り手にも)に提供する仕事をしています。公認会計士として「土台」となる監査業務、似て非なるアドバイザー業務について、その大変さや面白さをお伝えできればと思います。

また2児の母として仕事と育児に追われる毎日についても触れたいと思いますので、子育てをしながら働くことへのイメージを持っていただけたらと思います。

第6回 11月17日(火)



テーマ：地方再生～風の王国・秋田での風力発電への挑戦
講師：佐藤 裕之 法学部・昭和63年(1988年)卒
株式会社ウェンティ・ジャパン 代表取締役社長
羽後設備株式会社 代表取締役社長

「地方創生」が叫ばれています。長年にわたり、衰退する地方の先頭を走る秋田で、日本が元気になる鍵は地方の「再生」だと叫びながら、さまざまな地域興しに関わってきました。そして今、秋田を風力発電のメッカにしようと挑戦を続けています。私がここに至った経緯と取り組みをご紹介します。地方に生きることの意味と面白さをお伝えしたいと思います。そして、地方と中央、超高齢化社会、東日本大震災とエネルギー・・・これらをキーワードに、これからの日本のあり方を皆さんと考えてみたいと思います。

第7回 11月24日(火)



テーマ：楽しすぎるクリエイティブ産業の仕事と新しい世界の創造：
ベンチャーとアイドルと投資銀行と
講師：山本 祐也 社会学部・平成20年(2008年)卒
ミライシユハン株式会社 代表取締役CEO & Creative Director

世の中にはサザエさん症候群と言われる、日曜日の夜になると仕事や学校に行かなければならないことに憂鬱を感じる方々が多くいるそうです。一方私は、日曜日の夜になると早く月曜日が来てほしくてワクワクしてたまらない、逆サザエさん症候群とも言える状況です。来たる社会人生活約40年間でワクワクするほど面白い、そうでないかで人生は全く変わります。

私は投資銀行、某国民的アイドルプロジェクト等を経験し、現在日本酒ベンチャーの代表をしていますが、これらキャリアの歩みに触れながら、皆さんに仕事はいかに楽しいものかということをお伝えしたいと思います。そして本講義を契機に、皆さんができるだけチャレンジングなキャリアを選択し、校是であるCaptains of Industryを体現していく後押しをしたいと思います！

第8回 12月1日(火)



テーマ：商社 ―その変遷と魅力―自身の商社マン人生を通じて
講師：治良 博史 社会学部・昭和51年(1976年)卒
住友商事株式会社 総合モバイル事業部 参事
一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会 事務局長

日本独特の事業形態である総合商社において約40年に亘り様々なビジネスを担当してきました。嵐の海の大波のような世界経済の変化に翻弄され、ジェットコースターのような外国為替の乱高下に縮みあがり、バブルに踊り、はじけて凹み、ITに追いつけ追い越せ、投資に笑い、投資に泣いて、商社ってホント面白い。融通無碍なその事業形態を、自身の体験に沿ってお話することによってその魅力を感じてもらえれば望外の幸せです。

第9回 12月8日(火)



テーマ：二つのバブルを乗り越えて
講師：中島 敬雄 商学部・昭和45年(1970年)卒
DIAMアセットマネジメント株式会社 常任顧問

皆さんは一橋で学んだ後、どういう道を進まれるのだろうか？ダイナミックに変化する現代資本主義の中で、皆さんの職業的人生が実に多岐ものになることを切に祈るばかりだ。自分のケースを振り返ると、卒業後10年目に大きな転機が訪れた。丁度その頃から日本の金融の“市場化”が本格的に始まり、幸運にもそのチャンスをつかむことが出来た。以後35年間一貫としてマーケットから離れたことはない。しかし初めは左遷と思ったほど挫折感が強かった。若いうちは、むしろマージナルな所に身を置き、徐々にセンターに押し出される感覚が大事だ。そのためにも、自ら考える力を養い高度なバランス感覚を身につけていただきたい。そしてむしろ社会に出てから“勉強”していただきたい。

第10回 12月15日(火)



テーマ：人生の扉を開いてくれるもの
講師：森川 裕子 社会学部・平成21年(2009年)卒
日本ヒューレット・パッカート株式会社
人事統括本部人事企画・コミュニケーション本部

一橋を卒業して6年半、学生時代の豪州留学を経て常に意識してきたのは、どのようにグローバルで活躍できる日本人になるか。そんな思いから、世界中に切磋琢磨しあえる同僚とのネットワークを築けるグローバル企業に就職。「やらないで後悔するくらいならやって深く後悔しよう」をモットーに、まずは行動してみることを徹底。不思議なことに、その行動全てが何かしら次に繋がる人生の扉に結びついています。今皆さんの周りにある全てのものが、捉え方次第で今後皆さんの人生を助け、人生の扉を開く術になってくれます。自分自身のキャリア形成を紹介しながら、皆さんにとって今後のキャリアを考える助けになればと思います。

第11回 1月12日(火)



テーマ：政策立案にはイノベーターが必要だ
講師：木下 賢志 経済学部・昭和58年(1983年)卒
厚生労働省大臣官房審議官(少子化対策担当)
兼 内閣官房まち、ひと、しごと創生本部事務局次長

私は現在厚生労働省大臣官房審議官として、少子化対策に取り組んでいます。また、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長も兼ねております。皆さんもご存じのように日本の成長には、労働、資本、技術進歩がカギですが、この一つである労働力人口がこれからの日本の大きな制約要件にもなります。今なら日本の未来は変えられる、まだ間に合うという信念の下、社会保障のみならず、農業、教育、地方行政、をはじめあらゆる分野で人口減少社会をビルトインした改革が進められています。どこで仕事をしていても、観察力、構想力、ネットワーク力、実行力が不可欠であり、まさにイノベーターが必要です。地方創生の動きも織り交ぜながら、霞ヶ関での取り組みを紹介します。

第12回 1月19日(火)



テーマ：雑誌と出版のいま
講師：出樋 一親 社会学部・昭和57年(1982年)卒
株式会社講談社 第二事業局女性誌編集部長

私は30年近く週刊誌(週刊現代・FRIDAY)の編集者をした後、現在は女性ファッション誌(ViVi, withなど5誌)のとりまとめ役をしています。出版社に入社して30年以上を雑誌の世界に身を置いていることとなります。私の週刊誌時代のエピソードを含めた編集現場の体験と、出版社がいま取り組んでいる生き残りを懸けたチャレンジに関して話をしたいと思います。活字離れが叫ばれて久しいですが、デジタル時代を迎えて、出版社を取り巻く状況はコペルニクスの変化する最中です。紙の雑誌や本を販売するばかりではなく、海外への展開、電子書籍の販売、また自らが原作を持つ映画への投資などの新しいビジネスに着手しています。活字文化・雑誌文化の火を再び輝かせるための我々のトライに耳を傾けてください。